

学習指導要領		都立足立高校 学カスタンダード
<p>(1) 私たちの時代と歴史</p> <p>現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史的事象と現在との結び付きを考える活動を通して、歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付かせる。</p> <p>開国前後から第二次世界大戦終結までの政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、相互の関連を重視して考察させる。</p> <p>ア 近代国家の形成と国際関係の推移 (ア) 近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出、文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的事象について、常に現代と対比させ歴史的経緯を理解して過去の営みが現在の社会構造の礎になり、生徒自らも歴史の一員となっていることを知る。 ・ 現在の社会構造や社会事情、現象を取り上げて、歴史的な経緯と過去との因果関係を理解する。 ・ 幕末の動乱から第二次世界大戦終結まで、政治史や外交史を中心に因果関係を整理し、歴史事象の関連性を理解する。 	
<p>(2) 近代の日本と世界</p> <p>(イ) 条約改正や日清・日露戦争前後の対外関係の変化、政党の役割と社会的な基盤に注目して、国際環境や政党政治の推移について考察させる。</p> <p>イ 近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢 (ア) 産業革命の進行、都市や村落の生活の変化と社会問題の発生、学問・文化の進展と教育の普及、大衆社会と大衆文化の形成に着目して、近代産業の発展と国民生活の変化について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業革命を機に、西洋諸国がアジア進出を目指した背景、理由を理解し、当時の日本の国内状況を踏まえた上で、どのように対処したのかを理解する。 ・ 近代国家としての体制を整える中で発生した土族の反乱や自由民権運動、軍兵制度の時系列を追って理解する。 ・ 岩倉具視から小村寿太郎までの国際的な条約改正事項を具体的に且つ時系列に沿って理解し、当時の国際情勢を背景に理解する。 ・ 日清・日露戦争に至る経緯を当時の国際状況、国内状況から理解する。 ・ 国内事情（自由民権運動から各政党の発足背景、変遷背景）を理解し日清・日露戦争の開戦理由を理解する。 ・ 紡績業や製糸業の発展を中心に国内産業の変遷を時系列に沿って理解する。 ・ 資本主義国家成立の過程で、先人達の学問や文化が如何にして貢献をしたかを理解する。 	

学習指導要領	都立足立高校 学カスタンダード
<p>(イ) 諸国家間の対立や協調関係と日本の立場、国内の経済・社会の動向、アジア近隣諸国との関係に着目して、二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化について考察させる。</p> <p>ウ 近代の追究 近代における政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向が相互に深くかかわっているという観点から、産業と生活、国際情勢と国民、地域社会の変化などについて、具体的な歴史的事実と関連させた適切な主題を設定して追究し表現する活動を通して、歴史的な見方や考え方を育てる。</p> <p>(3) 現代の日本と世界 第二次世界大戦後の政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、現代の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察させる。</p> <p>ア 現代日本の政治と国際社会 占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立、国際交流や国際貢献の拡大などに着目して、我が国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について考察させる。</p> <p>イ 経済の発展と国民生活の変化 戦後の経済復興、高度経済成長と科学技術の発達、経済の国際化、生活意識や価値観の変化などに着目して、日本経済の発展と国民生活の変化について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦以降の経済史について各経済恐慌(戦後恐慌・震災恐慌・昭和恐慌)の発生理由を理解する。 ・内閣総理大臣や各政党の変遷をまとめ、各内閣総理大臣の政策方針を理解するとともに、第二次世界大戦に至るまでの時代背景を学ぶ。 ・欧州とアジアを対比しながら整理し、対立や協調理由を理解する。 ・日韓併合後の、対外政策について国際情勢を背景に整理し、日本が世界有数の経済国家になった理由と現在まで続く国際問題の重要性を理解する。 ・第二次世界大戦終結後のGHQによる占領政策と敗戦による国民の生活変化を挙げ、現在の生活への影響を理解する。 ・第二次世界大戦後から始まる冷戦からの国際情勢の変化を理解し、日本がどのような国際問題に直面しどのように解決、対処したのかを理解する。 ・日本国憲法下における日本の立ち位置を国際情勢と対比しながら理解し、政府の憲法解釈の変化や政治政策の変化を具体的に挙げ、現在も抱える憲法解釈問題について理解する。 ・戦後の経済復興から石油危機を迎え、高度経済成長、安定成長、現在の不況まで時代的背景を考え、時系列に並べ、国民の生活変化や政治変化を具体的に理解する。 ・戦後の国民生活の変遷や科学技術の発達が現在の私たちの生活にどのような影響を与えているかを考え、今後私たちの生活がどのように変わっていくかを予想する。

学習指導要領		都立足立高校 学カスタンダード
(3) 現代の日本と世界	<p>ウ 現代からの探究</p> <p>現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史にかかわる身の回りの社会的事象と関連させた適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その解決に向けた考えを表現する活動を通して、歴史的な見方や考え方を身につけさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の国際問題や国内問題を取り上げ、その歴史的な時代背景や経緯、意義を考える。 ・現在まで続く国際問題（領土問題や戦後賠償問題）についての歴史的背景を時系列にまとめ、これからの課題解決について考える。 ・生徒自ら自分のとりまく環境を学び、その具体的な歴史的意義について考えとともに、自ら興味関心のある歴史問題を調べ、発表する。